

No. 285	2009.10.24. 発行
あごら札幌 連絡先 011-644-2927 細田	今月通信担当 ヨシエ
《 今 月 の 内 容 》	
政権交代で日本の原発政策はどうなる? ··· 1~2頁	
第2申請、いまだ受理されず ··· 3頁	
個人的経験と裁判員制度(その2) ··· 4~5頁	
沖縄一周旅行~6, 沖縄は今戦場 ··· 7頁	
情報 ··· 8頁	
通信購読料(年間)1200円 郵便振替 02710-3-570あごら札幌	

政権交代で日本の原発政策はどうなる?

谷百合子

総選挙は、おおかたの予想通り民主党の圧勝に終わった。308人が当選し、一気に2・6倍の議席を獲得した。自民党の一党支配がいよいよ終わりを告げたのである。

民主党政権に期待したいのは、官僚の事務次官会議を中止したことである。この事の意味は大変大きい。マッカーサーは日本の憲法9条を歓迎奨励した。しかし一方で明治以来の官僚機構を残存した。これが「役人天国」日本を構成し、今まで官僚支配が累々と続いている結果を生んだのである。民主党が事務次官会議を取りやめたことは、官僚支配からの脱却の一歩であり勇断を評価して見守りたい。

しかし一方で、共産党と社民党がのびなかったのは残念な結果である。いわゆる「二大政党制」が民意の表われなのか疑問が残る。マスコミの「二大政党」イメージ作戦にまんまと乗せられたと思って仕方がない。英米の二大政党にあやかったムードに煽られ真剣に議論すべき問題はほとんど争点にならなかった。例えば「憲法9条」「日米安保条約」「原発政策」など。高速道路問題も大切かもしれないが、国政の深部に至る議論を、何故候補者は避けるのか。票数獲得のためにおいしい議論を繰り返している現状は民意向上から離れて行く結果になる。原発問題は今回も国政の選挙の争点にはならなかった。オバマ大統領の軍縮の足を引っ張っているのが、ほかならぬ被爆国日本であるという今日の状況であるのに実に情けないと思う。

以前、リンカンフォーラムという立候補者の立会演説会に係わっていた折、泊原発是か非かを論議してほしいと提案したところ「候補者が答えにくいから」と却下され、私はリンカンフォーラムを止めた経緯がある

「原発」問題はシングルイシューではない

選舉に比例制度が導入された年、私たちは「原発いらない人々」を結成し、イタリアのように国民投票にして原発の是非を問う選挙をした。その時は、市民運動グループからも批判があった。「政治問題は原発だけではない。教育も消費税も外交も山積している」と言うのが理由だ。しかし私たちには確信があった。

原発は、実に様々な要素をもつ課題である。原発と地震、原発とテロ、地方切り捨て、原発の一極集中は政府と電力会社との癒着を生む事、エネルギー問題、核兵器とつながるブルとニューム・劣化ウラン問題、原発労働者に係わる被爆者問題、被爆国としての軍縮問題、アジアへの原発輸出は新たな経済侵略である等など。

「原発いらない人々」の誕生は、何よりも、その時出会った全国の市民が、今もなお運動としてネットワークを繋ぎ合い、各地の反原発運動の協力体制を組み、六ヶ所の再処理や上関の新規立地阻止活動を継続していることである。私の場合は16年間の北海道電力の株主運動があり、また今取り組んでいる無防備の運動も、原発のネットワークを通して広がり始めている。

「原発いらない人々」の誕生は、苦節〇年の市民運動とは違う、個人の顔が見える市民運動として、今も進化を続けている運動ではないかと思う。六ヶ所の再処理反対で若い人たちが新しい運動の広がりをつくっているのは希望の光である。

「各党の原発政策マニフェスト」は？

MAKE the RULE(MR)のホームページから (CO2などの温室ガスの削減目標を定め、その目標達成のために温室ガスを確実に減らす制度作りを求めるキャンペーン)

- | | |
|--------|--|
| ○自由民主党 | 原子力エネルギーの利用を強化(発電比率を25.6%から40%、発電所の設備利用率58%から84%にする) |
| ○公明党 | 言及なし |
| ○民主党 | 安全を第一として、国民の理解と信頼を得ながら、原子力利用について着実に進める |
| ○日本共産党 | 危険な原発頼みの「環境対策」をあらためる |
| ○社会民主党 | 脱原発をめざし、核燃料サイクル・再処理を中止 プルサーマル計画に反対 |

民主党内では「産業派」と「環境派」の政策不一致がある。産業派は、電力会社など原発関連の企業の労働組合をバックにした勢力。環境派も、鳩山首相が「2020年までに1999年比25%削減を目指す」と明言したこと、「発電時にCO2を出さない原発」を推進する可能性がある。いずれにしても民主党は最終的に原発政策推進の方向を取ると思われる。民主党の中の衆参政策部会のメンバーには(5月15日現在)もと関西電力労組の委員長も名を連ねていた。

MAKE the RULEが「地球温暖化に関するアンケート」を実施した中に「温暖化対策として、原子力発電を推進する事についてどう思うか？」の項目があった。①反対②推進には疑問を持っている③賛成④判断できない。480名の回答のうち原発反対は民主12社民5共産9日本新党0みんなの党0公明0自民0。

賛成は民主56日本新1みんなの1公明7自民16となっている。その他判断できない、回答なし、アンケートが間に合わないなどもある。ちなみに鳩山首相は温暖化と原発に関して④の判断できないであった。

どの党も幹部の無回答が目立つ。小沢チルドレン(?)の無回答が気になった。政策に確信がある候補者は明確な回答が寄せられている。

オバマ大統領の軍縮推進の足を引っ張る日本政府

4月5日、チエコのプラハでのオバマ大統領の核廃絶に向けて演説は、世界に一筋の希望の光を差したと言える。核廃絶への道筋を探る賢人会議「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会」は日豪両国の呼びかけで発足、川口順子元外相らが共同議長。報告書は10月、広島での最終会合でまとまる予定。

オバマ大統領の草案は①核の唯一の目的は米国と同盟国への核使用の抑止にある。②他の核保有国とともに、自らが先に核を使わない「先制不使用」を検討する用意がある・・と宣言することを明記。他の核保有国にも同様の対応を促している。しかし2009年9月13日の共同通信の報道によると、日本にはこれに抵抗する勢力が強く、異議を表明していた。米側の草案は、来年の5月の核拡散防止条約(NPT)再検討会議までに新戦略を宣言すべくすすめられているが、日本の抵抗勢力は「核の傘」堅持を優先する歴代政権の方針を堅持しており、北朝鮮の生物・化学兵器による攻撃に対する核抑止力堅持に拘り、宣言の早期実現に抵抗している。

新政権の民主党岡田外相は「先制不使用」をのべている。全政権よりは軍職に前向きと思われる。

「核兵器」と原発の問題

広島、長崎に落とされた原爆は原発から製造される。広島は劣化ウラン型原爆。長崎はプルトニウム型原爆である。いずれも原発の再処理過程からどんどん製造される。原発を止めない限り原爆の材料は無くならない。政権が代わり「軍縮」にかんしてはほのかな前進の姿勢が見られるかもしれない。しかし小沢幹事長は「核武装論者」である。総理になった鳩山さんは苦東開発に熱核融合「イーター」を誘致しようとした人である。

苫小牧の市民が命がけで反対運動をして、ついに阻止を勝ち取った経緯がある。鳩山政権誕生で浮かれている人たちの中にはよもや「イーター」反対の仲間はいないと思うが・・(労働組合は?)

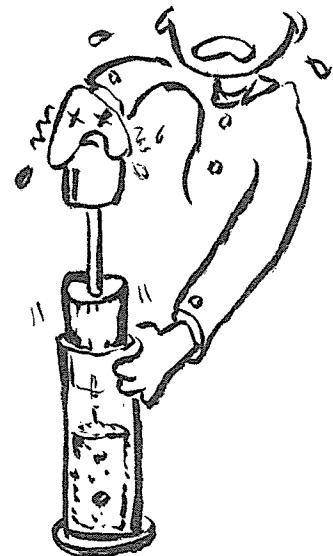
「六ヶ所の再処理」「山口県祝島の新規原発立地」即中止を！

青森県六ヶ所の核廃棄物プールが満杯を迎える。日本原燃に安全なのか尋ねたところ「事故は起きないようになっております」との回答であった。だれが信じるのだろう

山口県室津半島の先端熊毛郡上関町(長島)田ノ浦に、中国電力が原発を計画している。約30年間島ぐるみな反対が続いている。美しい瀬戸内海が放射能で汚されるのを許してはならない。民主党はハッ場ダム中止を決定したように瀬戸内の祝島原発も潔く中止ほしいと心から願う。

労災申請しませんと受けられず

55歳定年、と自分に言い聞かせ再就職を諦めた直後、幸運にも再就職できた。仕事は、テクニカルスタッフと呼ばれる「研究職の末端」。仕事内容は、高圧ガスを使う実験室で面付きのヘルメットを被っての作業、防寒具をまとい-10℃の部屋での作業など。並行して、その装置で使う試料作製も私の仕事となった。これが、やっかいもの。1Kgの重りを40cm持ち上げ、手を離す。試料が既定の厚さになったか、しゃがんで目線を合わせる。ひとつの試料を作るのに250から1000回この動作を繰り返す。「同じ動作を繰り返す」→腱鞘炎。私は知識としては知っていた。だから、無意識に右手人差し指は使わなかった。この指はパソコン操作で嫌でも使いすぎているから。それで、右手中指と親指で重りを持った。しかし、学習能力の如、腱鞘炎が更に悪化した指弾指（通称”ばね指”）になってしまった。2008年8月、整形外科を受診し「手術でしか治りません！」と言われた。しかし、私は東洋医学で直そうと試み、半年頑張った。しかし、甲斐なく、痛みが増し、日常生活が不自由になったので、再度受診し手術することに決めた。その旨職場の上司に伝えると、すぐに「労災申請してください」と言われた。すでに、自分の健康保険を使って受診していたので、その返済などで煩わしかった。それでも手術も終わり、手続きも終え、やれやれと思っていた所、当の労基署から横やりが入った。発症時期は最初に受診した日とされ、「この日から遡って6ヶ月以内に、仕事がハードになったことを証明せよ」。腱鞘炎というのは、繰り返し作業の継続の結果、いつかパタッと発症するものであり、「6ヶ月以内に、仕事がハードになった」のかどうかはあまり重要ではないと思う。面談による事情聴取では、「同じ仕事をしている人でバネになった人はいないか？」（研究業務なので「同じ仕事」をしている人はいない。私の作業は試行錯誤の結果見つけた、1番良い方法を追求）などの質疑が3時間も続いた。



おりしも、『フォーラム・女性と労働』に参加し、セクハラ被害で労災申請してもほとんど却下され、労働審判等を経てもなかなか認定されない現実を知らされた。もちろん、申請のための資料作成に雇用者側は非協力的だ。セクハラの場合、我慢して我慢してその結果、体調を崩し病院へ行く。しかし、発症時期を初めて受診した日とされた場合、とても不利である。多くの場合、病院にかかりながら働き続け、結果、精神も悪い、ある日、出勤できなくなるのだ。労基署では「発病前6ヶ月」が重要視されるのだ。それまで、我慢し、耐えて、誰にも相談できない人も多い。それが、セクハラの特徴でもある。失業する、ということは、収入が無くなる、ということ。死活問題だ。我慢してはダメ“！苦しくなったら、まず、友達に相談しよう。

個人的経験と裁判員制度（その2）

K. S

浮島トンネル出口の明かりが遠方に見えたと思ったら、切り立った崖の前で「尾根を間違えたので、これを先に登れ」と命じられたがどう考えても無理なのでこのまま降りていくことになった。またしても先に降りろといわれたが、踏み跡について行かせてくださいとお願いしたらどんどん先行かれ引き離された。大分歩いた先に、踏み跡が一旦降りながら上がっているところがありおかしいなと思った途端に筐で滑って2～3メートル落ち、木の枝を何とか捕まえた。すると、下の方から「ガウ、ガウ」と熊の威嚇声が聞こえてきた。死に物狂いで這い上がると、「どうだ先に行ったほうがいいのか待つか」とずっと先に行ってると思っていたKさんの声がした。「熊です。熊の声ですよ」と私の言葉に「この沢には熊がいるんだよ」と平然とこたえ、熊のことを告げずに上から見ていたことがわかった。

暗くなってきており、すごい斜面の下りだったので、その後も2回滑り落ちたが、幸い熊のいる谷からは離れており、笠山からの奈落のような崖でもなかったので、途中で止まることができた。やっと踏み固まった道にたどり着き道路ぶちに近い所までその道をたどっていくと、Kさんは途中から左側にそれた。不思議に思いながら道なりに右側に下っていくと、「どこを通ってもいいが、そつちは獸道だぞ」と道路に出たKさんから言われ、ぞへとしながらまたもときた道を戻り道路に出た。「結構やるじゃないか。滅多に聞けない熊の声を聞けてよかったです」という声が聞こえたが、手も足も心もブルブル震える状態の人間に言う言葉かと、「日高はこんなもんじゃない」と途中何度か言われましたが、日高並に大変なところだと一言も言わなかっただけじゃないですか。「簡単な山だから。誰でも行けるから」としか言わなかっただけですかと返答し、翌日のユニ石狩岳はどうしても無理なので私だけ最も近い温泉に置いて行ってくださいと強くお願いした。明日の朝連れて帰ってやるからとにかくラーメンでも作ってやろうとしつこく言われたが、「もうヒッチハイクをしても一人で帰ります」と言い張り、「計画書をください」と頼んだが、「あったけどなくなったり」と渡してもらはず、当初から笠山から降りると説明していたのに、「Sさんが遅いから早く降りよう」と笠山から降りた。最初はもときた林道を帰るつもりだった、「テント場でのビバークは以前あの辺りで熊の足跡を見たから無理だった」→（では、熊が出るところで昨日はテントを張ったのですか？）、「食料品がないからビバークできなかった」→（すごくたくさん持っていたじゃないですか）、もう呆れ果てるほどコロコロと言い分が変わり、まったく信用できなくなった。

層雲峠温泉には連れて行かない。自分はすぐ札幌までの高速に乗るから旭川にも行けないが、以前行ったことがある協和温泉まで乗せてやると言ひながら、ナビの使い方がわからないとか、ナビのリモコンがなくなったとか、通り過ぎてしまったとか、枝道を入ったり、上川まで引き返したりしていたのに、私がコンビニで温泉への道を尋ねて車に戻るとそれまでの右往左往した運転はどこへやら、スッとあいべつ協和温泉に連れて行ってくれた。（コンビにでは「大分離れているから説明が難しい」と店員さんとお客様から親切に説明してもらったが正直その説明はよくわからなかった。）札幌まで連れて帰ってやろうという言葉を何度も断りつつなんと2時間半もかかり、やつと21時45分に温泉に到着することができた。満室のため宿泊を断られたが、寝袋等はあるからどこでもいいので何とか泊まらせてくださいと必死でお願いし大広間に泊めてもらった。なぜか玄関の脇にはKさんの車がしばらく停まっていた。

鍵がかからないところだったこともあり結局眠れないままいろいろ考えた。奈落の谷か、熊のいる谷かはさておき、テントその他の重い共同装備とスキーを担いでいたのでどこの時点で滑落してもおかしくなかった。生きて帰ることができたことは本当に不幸中の幸いだった。

今回の山行のほとんどはまったく危険はなく、問題は笠山から降りるルートだった。（Kさんはピークとルートを潰して歩いている。）山に慣れているKさんにとっても大変だったことは見ていて

わかった。あのルートは雪の残っているあの時期だったからこそ辿れたもので、もう二度と通ることはできないと思う。

私の反省点。（いくら山が好きでも命まで差し出すつもりはないのだから、）人に頼らず、もっと慎重に計画を立てよう。（今回、一緒に登る予定だった人の都合がつかなくなってしまったので困っているので一緒に登ってもらえないかと依頼されたように）頼まれるとついその気になってしまふが、（既にいろいろ購入していても、年休の申請が終わっていても）断る勇気を持とう。（せんじつめれば「人を見る目がなかった」ということだが、）世の中にはいろいろな人がいるのだから簡単に人を信用しないことにしよう。（基本的に性善説の立場に立っているが、高齢者の仲間入り目前でもあるので、後悔する前に性悪説に基づきしっかりガードしなければ・・・。貧乏人なのだから特にその必要があると思っている。）

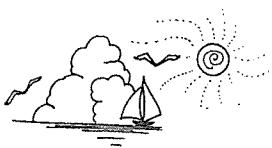
自宅に帰ってから憤慨していろいろな人に話を聞いてもらった。（もちろん私のことを真剣に心配してくれると思った人達に。）しかし、返ってきたのは「どうして男と二人で山に行ったのか」、「前に酷い目にあったのに・・・」等々の言葉。「辛い目にあって命からがら戻ってきたのに、そのうえ何で非難されるの～」と悲しかった。心配して言ってくれているのはよくわかるし、我ながら「あんな酷い男と一緒に山に登るなんてホントにお人よしというかバカというか・・・」と思っている。それに、私も逆の立場なら多分いろいろ質問していたかもしれない想像する。でも、話を聞いてもらって「大変だったね」と言ってもらいたかっただけなのに、ほとんどの人から同じような反応が返ってくるので、状況が性被害に似ているような気がしてきた。悲惨な性犯罪の被害者と愚かな？私とと一緒に論ずることができないことはわかっているが、私からすれば二次被害に似た状況に感じられたのだ。（感じていることを適格に表現できないのがもどかしい。）性犯罪被害者の二次被害、三次被害についての配慮は着実に深まっているが、二次被害を恐れて、あるいは犯罪事実を知られるのを嫌がって親告しない被害者は相当いるのではないかと思う。

折しも、今年から裁判員裁判が始まった。強姦致死傷、強盗強姦、集団強姦致死傷、強制わいせつ致死傷など対象になる性犯罪は全体の2割前後とみられる。女性たちの猛烈な抗議により、最高裁は、検察を通じ被害者に先に裁判員候補者名簿を開示して関係者を特定してもらうとの対応策を打ち出していたが、プライバシーの侵害を防ぎきれないまったく不十分な対策と感じられた。そして迎えた最初の性犯罪での裁判員裁判（青森地裁、全体では3例目）では、裁判員の選任にあたっては、被害者と生活環境が重なる可能性がある候補者を丁寧に除いてあり、被害者を一貫して匿名とした。また、別室でのビデオリンク方式により被害者の姿は傍聴席から見える大型モニターには映さず、裁判員の手元の小型モニターにだけ映るようにしてあり、当初の案よりも配慮の幅が拡がっていた。

11月17日には札幌地裁でも性犯罪の裁判員裁判が始まる。性被害はそもそも裁判員裁判から除外すべきとの意見も多い。プライバシーの問題だけではなく、裁判員からの不用意な質問に被害者が傷つく恐れもあるからだ。それに、裁判員に情報が開示されることを嫌がって親告しない被害者がもっと増える事態も考えられる。市民が刑事裁判に参加することにより、市民感覚を司法に取り入れることを目的に始まったこの制度は、司法をもっと身近に感じてもらうことが期待されている。もしかしたら、防犯に繋がるかもしれないし、冤罪も少なくすることができるかもしれない。（逆もありえるが・・・。）だから、性犯罪は許されないということをアピールするためにも、性犯罪を裁判員裁判から外すのには反対であった。しかし、今回の経験により被害者の立場が少しあわかつてきただ。ある程度の配慮があるとはいえ、今のような司法の状況でもし被害者になった場合親告できるのか、きれい事じゃないんだと思い知らされた。



性犯罪に対する裁判員裁判への配慮をより強く求めていきたい。



沖縄一周旅行

K. S

沖縄一周旅行が9月に実現した。まだ、1か月しか経っていないので体のあちこちに日焼けの痕がしっかり残っているが、自動販売機を見つけるたびによく冷えた500ミリリットルのさんぴん茶をクーッと飲みほし自転車を漕いだ“やんばるな日々”がなんだか随分昔のことのように感じる。※“やんばる”とは沖縄県北地区のことである。

母から、「旅費は出すのでどこかに旅行に行こう」と誘われたのは4月。旅行が趣味のような母も沖縄には行ったことがないというので、これ幸いと目的地を沖縄と定め、5月には飛行機を予約した。(最近は2か月前でなくとも予約ができる。) 千歳から直行便はなく最安の神戸空港乗継便(何しろ沖縄着22:45、帰りの便は神戸で4時間25分待ち時間があるというシロモノ。しかし、安かったせいか満席だった)を選択し、9月17日から26日まで10日間沖縄に滞在した。前半はリゾートホテルに泊まり美ら海水族館やひめゆりの塔その他の観光地に出かけ、国際通りで買い物をして型どおりの沖縄観光をした。後半、空港で母を見送ると、札幌から持ってきたおりたたみ式自転車に乗り陽のあるうちに宿(ビジネスホテル、ドミトリー、ゲストハウス、民宿、いずれもいわゆる安宿)にたどり着ければそれで結構というゆるい旅程で、あちこちで寄り道をし写真を撮りながらのんびり進んだ。実は、自転車に乗りだして3時間ばかり経った頃、いきなりザーッと雨が降り暗澹たる気持ちで20分くらい雨宿りをしているとまたよい天気になり、通り雨というかスコールってこんな感じなのかなという雨に3回遭つただけで、台風に遭遇することもなくほぼずっとよい天気で、懼っていたハブに出会うこともなかった。(石林山公園でまだ若い青蛇を見たのと、やんばるの道路で干からびた轡死体を見ただけだった。)

ブログで自転車での本島一周の記事をいくつか読んだが、皆時計回りで、東シナ海は平坦だが太平洋側はアップダウンが激しく消耗すると書かれており「夕日をまともに浴びてひどく日焼けした」という記事があったので、私は先憂後楽で行こうと反時計回りの道を選んだ。海辺を走って、なぜ皆時計回りかわかった。(反時計周りの私は、海の写真を撮るのに毎回道路を横切らねばならなかった。) それにしても反対車線を競技用自転車で走り抜けるサングラスの人々があまりに多く、訝しんでいたところ、それは米軍の訓練の一環かツール・ド・沖縄の練習をしている人達だろうと後で宿の人に教えてもらった。

最北の辺戸岬、石林山公園、茅打バンタと続く絶景と万座毛の景色には来た甲斐があったと感じた。漢那ビーチの奥と名護の浜辺にある私だけのプライベートビーチでは貝を拾ったり裸足で砂の感触を楽しんだ。慶佐次湾のヒルギ林の探索やタナガーグムイ(※)も冒険心を満足させてくれた。金武町の湧水、牧志公設市場で食べたグルクンの唐揚やシャコガイの刺身、ガザミ料理のおいしかったこと、ドラゴンフルーツ、島バナナ、フルーツパパイヤ、グアバ、スターフルーツなどの果物の甘~い食感、あちこちで食べたミルクゼンざい(練乳かけ氷金時のようなもの)やソフトクリーム。(そのうえ、冷たい飲み物を1日2リットルくらい飲んでいた。) ※毎年、水死者、転落死者あり。

沖縄で一番に思い出すのは、どこまでも続くエメラルドグリーンの“どこでも絵葉書”状態の美しい海と自転車を押してへとへとになりながら歩いた国頭村の山中である。

美ら海水族館の感想はないの?首里城にもいったんでしょ?基地はどうだったの?等々の疑問に答えるため、次回に続く。

※出発前にいろいろ職場で言われた心ない言葉を思い出し、
グリーンの海を見ながら、ブルーな気分で走り続けた旅でもあった。



沖縄は今も戦場

谷 百合子

10月8日から14日まで、那覇の無防備署名支援で沖縄に出向いた。折悪しく台風発生時で、渦に向かって飛ぶことになり、空の便は混乱状態。1日ががりでやっと沖縄にたどり着くことができた。江別から2人、大阪から1人合流して4人が、朝10時から5時まで那覇市の街頭で署名の手伝いをした。私は今回で4回目の沖縄になるが、なぜか観光には縁が無く7日間のうち最後の1日、地元の知人の車で基地などをみてまわった

「10・10空襲の日」に「無防備平和条例制定那覇」立ち上げ！

「戦争はイヤです！那覇市民の会」は8月16日に結成し、署名の準備をすすめてきた。私は事務局の依頼を受けて、今年の1月、署名を終えた札幌の体験を話しに行った。基地の島沖縄で無防備宣言をする！胸の高鳴りと沖縄に対する熱い思いのありつけを話し、札幌での取り組みを伝えてきた。沖縄では憲法9条では闘えない。私はそう思う。沖縄のどこに9条があるのか？ヤマトンチュウはその事に配慮すべきではないか。基地があるから、軍隊がいたから殺されたことを、沖縄の人は何処よりも誰よりも身に沁みている筈だ。政府が2004年に批准したジュネーブ条約第1追加議定書の「無防備地域宣言」は沖縄のあらたな希望である。

10. 10空襲とは

1944年10月10日、米艦隊の艦載機1400機が、奄美大島以南の沖縄、宮古、八重島に至る南西諸島を行った9時間にわたる無差別攻撃の事で、公施設、民間施設、農村地帯などが攻撃されて約1500人の死傷者を出し、旧那覇市街は90パーセントが焼失し、沖縄戦の事実上の始まりとなった。慶良間諸島は大変な惨事を受けたのであるが「前島」は、日本軍を上陸させず、悲劇を逃れた。軍隊と基地をなくすることが何よりの平和であるという無防備運動に対して、前島は重要ではなかったから米軍は上陸しなかったのだと反論する人がいる。しかし米軍は上空から慶良間諸島を含め前島も占領予定地としていたから上陸したのである。戦争体験のある分校長が命がけで日本軍上陸を阻止したので米軍は襲撃しなかったのである。

沖縄の熱きショウテイ（兄弟姉妹）

最終日は署名仲間の大村さんの車で、沖縄を案内して頂いた。いつもかけ足だったひめゆりの記念館にたっぷり時間をとることができ、お2人の元ひめゆりの方と話すことができた。1999年に平和巡礼に参加し日本山妙法寺の方たちと2週間かけて沖縄を歩いたのが私と沖縄との出会いであるが、北の辺戸岬に立っている「復帰の党」の格調高いあの名文が、今の沖縄を知ると虚しく思える。思いやり予算は考えるほどに腹立たしいが、大村さんからまた一つとんでもない話を聞いた。米兵は夏に1ヶ月ほど本国に帰るが、その時クーラーをつけ放しで行く。帰ってきて部屋が涼しいようにつけていくのだ。我らのささやかな省エネは何なのか？旅の終わりは私にとって2度目になる、読谷村の彫刻家金城実さんのアトリエで、魯迅、ロダン「叛」への思いと、沖縄の怒りと愛を2時間に亘ってたっぷりと伺ってきた。アトリエでは西山監督ともお会いし再会を楽しみに帰路についた。

Information

☆連続講座：いま「恋愛」に何が起こっているのか？？「婚活」時代の恋愛学

会場・申し込み先：さっぽろ自由学校「遊」tel:011-252-6752 時間：18:30～20:30

11月3日（火・祝） “カップルのコミュニケーションと結婚のゆくえ”

11月17日（火） “広がる格差と悩める関係”

☆アムネスティスピーキングツアー 《 元グアンタナモ収容者が語る真実「奪われた人生」》

11月5日 18:00 開場 18:30 開演

講師 ムラット・クナズさん

（19歳でパキスタン当局に拘束されグアンタナモに送られ水責めなどの拷問を受ける。現在27歳）

場所：エルプラザ4階C 資料代：500円 連絡：011-664-6216

☆ 「そしてみんな非国民になった！？」 非国民入門セミナー2009 11回目

11月28日(土) 13:30 開場 14:00 開演 場所：リンクエージプラザ第3研修室

講師：清水雅彦さん（札幌学院大教授） 参加費 500円 連絡先：011-664-0632（谷）

「ここまで来た監視と社会」 郵便受けにチラシを入れただけで逮捕の時代が来た。

☆主夫生活で見えた「格差社会」と「ワークライフバランス」

12月5日（土）13:30～15:30 講師 江口凡太郎（高校家庭科教師）

*男性で育児休暇をとる人はまだ少ないというのが現状ですが、江口さんは2度育児休業しています。

その中でみえたこと感じたことをお話ししていただきます。

場所：かでる2.7 道民活動センター530会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）TEL：011-204-5100

参加費 500円

主催：性教協いしかりサークル（森長773-1745）

あとがき

今月、母の一周年を迎えて、つい一週間前、お位牌などを「寺」に納め、我が家にあった「お仏壇」も「お焚きあげ」に出し、寂しくなった。私は「お花」をプレゼントされても水を取り換えるのが面倒なので迷惑に思うようなヤツ。それが、毎日毎日、3Fに通い（我が家は5F）水を取り換えロウソクを灯し線香をあげ、母と会話した。…それが、無くなつて、再びぽっかりと穴があいたような気持ちだ。

日本山妙法寺のお坊さんたちと「インド仏跡めぐり」の旅をし、いくらか変わったのかもしれない。来年、「3度目の二十歳」を迎え、無事リタイアできたら、インド・バラナシに旅立ちたい。ガンジス川で、インドの人たちと「祈り」たい気持ちになっている。これは、「なってみないとわからない」不思議な感じである。連れ合いも出張から帰つて、仏壇が無くなつたのを見て「なんか寂しくなつたね」と言っていた。私が居ないとき、忙しいとき、彼が仏壇を守ってくれた。ありがとう！ 芳恵